

## 九州大学附属図書館のMy Library

甲斐, 重武  
九州大学附属図書館

宮岡, 大輔  
九州大学附属図書館

兵藤, 健志  
九州大学附属図書館

宮地, 健士  
九州大学附属図書館

<https://hdl.handle.net/2324/2929>

---

出版情報 : 大学図書館研究. 75, pp.13-17, 2005-12-31. 学術文献普及会  
バージョン :  
権利関係 :

# 九州大学附属図書館のMy Library

甲斐重武, 宮岡大輔  
兵藤健志, 宮地健士

抄録：九州大学附属図書館は、大学統合と国立大学法人化という大きな変革期のなかで図書館ポータル「My Library」を開発し運用してきた。これはサービスの一元的窓口として従来の蔵書検索やサービス依頼を統合する形のものであるが、システム的には必ずしも完成されたものではなく、マニュアル業務を活用して柔軟に対応してきた。2005年末には大学の新しいキャンパスへの移転が開始され、新しい図書館が開館することに加え、図書館システムの機種更新も予定されている。これを機に図書館ポータルとしての総合的な完成度を高めようとしている。

キーワード：図書館ポータル, My Library, 九州大学附属図書館

## 1. はじめに

九州大学（以下、本学という。）は、大学統合（2003年10月）、法人化（2004年4月）、キャンパス移転開始（2005年10月）といった大きな変革のさなかにある。その大学に附属する九州大学附属図書館（以下、本学図書館という。）もまた、大学統合に伴う図書館システムの統合、法人化に伴う財務会計システムとの連携、キャンパス移転に伴う新図書館「理系図書館」の開館および全学サービスの再検討等といった、図書館のシステムおよびサービスの改善を進めている。

本学図書館の「My Library」は、このような大学の変革と図書館環境の変化のなかで開発し運用している図書館ポータルのシステムでありサービスである。新しい制度や運用方式の変更への対応が頻繁になることから、システム仕様は必ずしも完成されたものではなく、サービスの運用にあたっては柔軟に対応を行ってきた。

近く、図書館システムの更新（2005年12月）を機に、My Libraryについてもシステムの拡充とサービスの改善を図る予定である。特に、わが国有数の電子ジャーナル環境やOpenURLを活用したリンクサービス、大学が進める新しい認証システム実験といった、本学の特色ある環境を活かした図書館ポータルの構築を計画しているが、ここでは、現時点における本学図書館のMy Libraryの開発経緯や機能概要を中心に事例紹介をしたい。

## 2. 九州大学附属図書館のMy Library

### 2.1 図書館ポータルとしてのMy Library

本学図書館の提供するMy Libraryは、いわゆる図書館ポータル的一种である。図書館ポータルについては、国立大学図書館協議会の図書館高度情報化

特別委員会ワーキンググループによる「電子図書館の新たな潮流」<sup>1)</sup>の中で、「図書館が提供する様々な情報やサービスをワン・ストップで利用できるシステムである」と定義されている。そのうえで図書館ポータルが今後新たな付加価値サービスとなるために、①インテグレーション機能、②パーソナライズ機能、③利用支援サービスとの相互補完機能を有し、機関リポジトリの統合検索やリンクシステム、利用者自身によるカスタマイズ、サブジェクト・ゲートウェイ等のシステムを実現することが提言されている。

本稿で紹介する本学図書館My Libraryは、従来サービスを統合した一元的な窓口機能が中心であるが、将来的には機関リポジトリやリンクシステムに対応した新しい機能を充実させる予定である。

### 2.2 My Libraryの開発

My Libraryは、2004年6月にサービスを開始した。開発は、その前年の2003年10月から行っている。九州大学と九州芸術工科大学の間で大学統合が行われ、図書館システムについてもメーカーの異なる両大学のシステムを統合することとなった時に、図書館ポータル機能の開発を行うこととなった。

当時メーカー製図書館システムパッケージのなかでも図書館ポータルのサブシステムを有するものは多くはなく、仕様を要求する本学も大学統合と法人化の最中での仕様内容が不確定なこともあって、メーカー製のものではなく独自にシステム開発を行うこととした。すでに図書館システムの機能として実現していた「Webサービス」（WWWでの貸出・予約状況照会とILLサービスの申込）を軸として、OPACとの連携機能を追加し、My Libraryとしてサービスを統合することとした。「SDI (Selective Dissem-

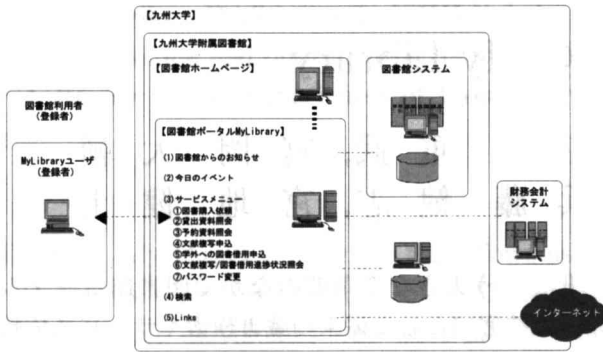


図1 九州大学附属図書館My Library概念図

ination of Information) サービス」などの検討も行ったが、開発の期間と予算が限られていたので見送っている。

### 2.3 My Libraryの機能

本学図書館のMy Libraryを構成する主体やサービスやシステム及び情報源の関係図は図1の通りである。図書館利用者のうち利用登録をしたMy Libraryユーザに対して、ホームページの一部になっているMy Libraryのページを通してユーザ固有のサービスや情報を提供している。

My Library機能の概略を以下に示す。My Libraryのシステムにログインして最初に表示されるページから以下の機能が利用できる(図2)。

- (1) 図書館からのお知らせ
- (2) 今日のイベント
- (3) サービスメニュー
- (4) 検索
- (5) Links

#### (1) 図書館からのお知らせ

この部分は、本学図書館ホームページのトップページで表示させている「News」を、そのまま表示させている。使用しているCGIと関連するデータファイルをMy Library用のサーバへ転送している。

#### (2) 今日のイベント

この部分も、図書館のトップページと同様の「本日の開館時間」を、そのまま表示させている。また、当日にイベントがあればメッセージを表示させている。これは図書館で作成したJavascriptファイルによって、日付に対応したメッセージを出力している。

#### (3) サービスメニュー

ログインしたユーザが「学生」であるか「教職員」であるか、またILLサービスの利用を申し込んでいるかどうかによって、各表示項目が異なる。最大で以下の項目が表示される。

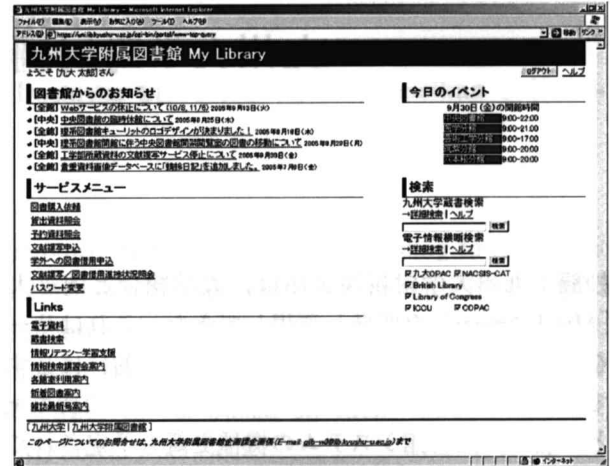


図2 九州大学附属図書館My Libraryトップ画面

- ①図書購入依頼
- ②貸出資料照会
- ③予約資料照会
- ④文献複写申込(学内・学外)
- ⑤学外への図書借用申込
- ⑥文献複写/図書借用進捗状況照会
- ⑦パスワード変更

各項目の詳細については後述する。

#### (4) 検索

本学図書館のOPACと、本学図書館で提供している「電子情報横断検索」を利用できる検索フォームである。実態としては、図書館で作成した(部分的な)HTMLファイルをそのまま表示している。

#### (5) Links

本学図書館で提供している各種コンテンツへのリンクを表示している。実態としては、上述の「検索」と同様、図書館で作成したHTMLをそのまま表示している。

## 3. My Libraryのユーザ管理

### 3.1 サービス対象者

本学図書館の利用者は、学生や教職員などの学内者から卒業生や一般市民などの学外者まで属性が多様である。現時点のMy Libraryは利用者の属性単位で管理を行い、本学に在籍する学部学生・大学院生・研究生・教職員・研究員などをMy Libraryユーザとして登録している。

現行のMy Libraryでは、大学統合後と法人化によって、2つの大学の属性及び新旧の大学の属性が輻輳したため、個々人のユーザ別に細かいサービスのカスタマイズをするにはいたっていない。法人化の体制が落ち着いてきたことに伴い、次期システムの導入後は、図書館利用者の属性や利用規則の再検討とともに、My Libraryのユーザ資格の再検討も

必要になっている。

### 3.2 利用申請

オンラインサービスであるMy Libraryであるが、その利用申請は、現在のところ、図書館の窓口で申請書を提出する方式にしている。申請時に、図書館利用者票（学生証）によって本人確認を行う。なお、所属・連絡先・メールアドレス等の変更、さらには、利用自体の廃止を希望する場合も利用申請手続と同様に書面を窓口へ提出する形式にしている。

現時点ではこのように利用申請や変更に係る事務を窓口で行っているが、次期システムの導入と、利用者属性等の安定化をうけて、My Libraryユーザの増大に対応するために、オンラインでの処置に移行する予定である。

### 3.3 ユーザ登録

My Libraryのユーザ管理は図書館システムのユーザ管理機能を使って行う。My Library固有の特別な利用者ファイルは存在しない。図書館システムの共通の利用者ファイルを使用している。そのため、My Libraryのユーザは図書館利用者として図書館システムに登録されていなければならないし、My Libraryの有効期限は当然ながら図書館利用者としての有効期限と同一である。

My Libraryのユーザ登録は、利用者からの申請を受けた後、担当職員がマニュアル作業で行う。利用者データに任意のパスワードを付与すると、My Libraryへのログインとその基本サービス、および後述する学内図書配送サービスが利用可能となる。さらに、申請者がILLサービスを希望する場合は、利用者データに申込窓口のコードを付与することでILLが利用可能になる。登録作業が終了したら、付与したパスワードを初期パスワードとして申込者にメールで通知する。

通知された初期パスワードはMy Libraryユーザ自身で変更することができる。セキュリティ保護のため定期的に変更するよう呼びかけており、パスワードの管理についてはユーザ自身が責任を持つように促している。パスワードを忘れた際のユーザからの問い合わせについては電話で即答せず、登録されているメールアドレスへ再通知している。

月別のユーザ登録件数の推移（図3）を見ると、My Libraryのサービスを開始した直後の2004年6～7月に一つのピークを迎え、それからしばらく減少が続いた後、2005年4～5月に急激に増加して再度ピークになっている。学年期の最初に登録申請が多いのは当然であるため、今後の新システムでは、

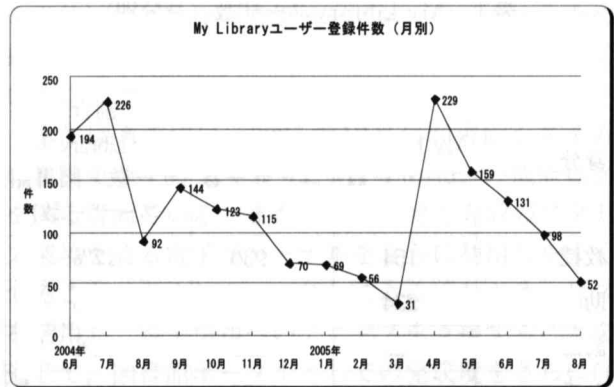


図3 My Library ユーザ登録数の推移

学年期の最初にMy Libraryのユーザ登録を一括して行う方法を予定している。

### 3.4 ユーザ数

My Libraryのユーザ総数は2005年9月21日現在で1,918名である。身分別の内訳（表1）を見ると、院生博士（383名）、院生修士（382名）、学生（269名）、助教授（234名）、助手（218名）の順となっている。

また、図書館利用者数（登録者数）に占めるMy Libraryユーザ数の割合が最も高いのが助教授（25%）で、続いて特別研究員（18%）、教授（17%）、事務補佐員（16%）、院生博士（15%）の順になっている。My Libraryユーザ数として3番目に多かった学生については図書館利用者のわずか2%、50人につき1人しかMy Libraryのユーザでないことになる。特に学生サービスの向上を図る上でも前述のように一括登録等の改善が必要になっている。

以上のようにMy Libraryのユーザ管理は、システム的な制限や運用上の理由によって、現時点では主にマニュアル業務で行っているが、次期システムではオンラインによる管理に移行する計画である。

## 4. My Libraryサービス

本学図書館のMy Libraryのサービスを具体的に紹介する。主に従来からのオンラインサービスを一元的に提供している機能を概説する。

### (1) 図書購入依頼

本学では、2004年4月からの法人化に伴って、大学予算で購入する物品の購入については財務会計システムというもので各教員等が直接購入依頼を行うようになった。図書についても図書館が提供する画面ではなく財務会計システムの購入依頼画面で行うことになっている。My Libraryでの図書購入依頼のサービスは、その財務会計システムへのリンクを

表1 My Library ユーザ数 (身分別)

平成17年9月21日現在

身分	My Library ユーザー数	図書館 ユーザー数	割合 (My Library ユー ザー数/図書館 ユーザー数)
教授	154	930	17%
助教授	234	934	25%
講師	29	229	13%
助手	218	1976	11%
教務員	2	75	3%
事務職員	66	852	8%
技術職員	31	1818	2%
医員	10	134	7%
研修医	4	113	4%
事務補佐員	42	256	16%
技術補佐員	6	65	9%
院生博士	383	2632	15%
院生修士	382	3809	10%
学生	269	11728	2%
研究	28	291	10%
専修生	1	23	4%
聴講生	2	57	4%
研究員	49	344	14%
特別研究員	3	17	18%
非常勤講師	5	50	10%
合計	1918	26333	7%

表示しているだけである。

## (2) 貸出資料照会

ログインしているユーザの現在の貸出状況を表示するメニューである(図4)。現在貸し出している資料名のほか、返却期限日、全貸出冊数等の情報が表示される。

## (3) 予約資料照会

ログインしたユーザが現在予約を申し込んでいる資料の状況を確認できる。現時点では、(2)「貸出資料照会」と同様に照会した結果を表示しているだけである。

## (4) 文献複写申込(学内・学外)

### (5) 学外への図書借用申込

メニューからWWWを通じてILLサービスを申し

図4 貸出資料照会

図5 ILL 申込画面

込むことができる。My Libraryの前身である「Webサービス」から図書館システムの機能として実現されており、現在のMy Libraryサービスの主要サービスといえる。申込フォーム画面は図5のとおりである。

利用者は書誌事項を入力して申し込む。この際、NACSIS-Webcatを予備検索画面として持つことにより、検索結果を申込フォームに反映できる。本学OPACの検索結果からの取込も実現しているが、その他の書誌・論文のデータベース検索結果の活用は今後の課題になっている。

申し込まれたデータは、図書館システムのILL業務上の依頼データとして転送され、利用者毎に登録されている担当(申込窓口)館がその転送先として指定される。その後は通常のILL業務の中で処理され、申込資料到着等の連絡は個々にメールや電話で行う。

## (6) 文献複写/図書借用進捗状況照会

ILLサービスの進捗状況を表示する。ここではWWW上からだけではなく、用紙等で申し込まれたILL申込についても、図書館システムに入力されて

いる申込データであれば全て確認することができる。

(7) パスワード変更

利用者自身でパスワードの変更登録を行う。

5. 学内図書配送サービスの補完

現在のMy Libraryの機能には含まれてはいないが、本学図書館の特長的なサービス「学内図書配送サービス」のWeb申込機能について紹介しておきたい。

「学内図書配送サービス」は、福岡県内に点在するキャンパス間をまたいで、利用者が希望する図書館まで各図書館（室）が所蔵している図書を配送して貸し出すサービスで、本学図書館では2004年4月から正式に運用を開始している。

この「学内図書配送サービス」は、文献複写等と異なり現在の本学図書館の業務システムに実装されている機能ではなかったために、My Libraryとの連携機能が実現できなかったものである。しかしOPAC検索結果から配送サービスの申し込みが可能であり、配送サービスのユーザ認証では部分的にMy Libraryサービスのユーザ認証を流用する形をとっていた。次期システムでは学内図書配送サービスもMy Libraryという統一した入口から利用できるようにポータル機能を拡充することを検討している。

6. おわりに

以上のように、本学図書館では図書館ポータルとしてMy Library機能を開発し、本学および本学図書館の変革が進行するなかで、基本的な機能に限り約1年半運用してきた。法人化に伴う大学環境は今後落ち着いてくる一方で、本学ではキャンパス移転が向こう10数年以上にわたって予定されている。このように大学自体の分散化が進行するなかでは、

全学的に均質的な図書館サービスの保証をするためにも、My Libraryの機能強化が必要になってきている。

本学図書館では、2005年12月に図書館システムの機種更新を控えており、My Libraryの機能拡充を図る計画でいる。また、我が国でも有数のアクセス環境を誇る電子ジャーナルをさらに利用しやすくすること、さらにOpenURLによるリンクサービスを活用し、電子情報へのアクセスを支援することを通じて、図書館ポータルとしての完成度をさらに向上させる予定である。さらには、本学が実験を予定している全学的な個人認証のシステムについても、実用化の可能性が高まった時点で、より信頼性の高い認証方法として採用できることが期待されている。

本稿では九州大学附属図書館のMy Libraryの開発の経緯と機能概要を紹介したものであるが、大学図書館ポータルについては、内外の大学図書館に共通する標準的な機能の装備と、新しい技術動向への適切な対応が必要である。加えて、それぞれの大学図書館の特徴や固有の事情、大学図書館が属する大学の使命や課題にそって個性的な図書館ポータルを追究することが重要である。

参考文献

- 1) 国立大学図書館協議会図書館高度情報化特別委員会ワーキンググループ“電子図書館の新たな潮流－情報発信者と利用者を結ぶ付加価値インターフェース－（平成15年5月）”〔参照 2005.9.30〕  
(URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/publications/reports/74.pdf>)

< 2005.9.30 受理 かい しげたけ 九州大学附属図書館利用支援課長, みやおか だいすけ 九州大学附属図書館, ひょうどう けんし 九州大学附属図書館, みやぢ けんじ 九州大学附属図書館六本松分館 >

**KAI Shigetake, MIYAOKA Daisuke, HYODO Kenshi, MIYAJI Kenji**  
**“My Library” at Kyushu University Library**

**Abstract:** Kyushu University Library began to operate its library portal “My Library” during a dramatic period of change caused by university mergers and the creation of national university corporations. The portal function was intended to provide a single service point for the library catalog, search engines, and library services, but the software wasn’t yet completely developed so a certain amount of manual work had to be done to make it work. At the end of 2005, when the university moves to its new campus, there are plans for improved library systems to support the new library, including a more complete system of centralized services through the library portal.

**Keywords:** library portals / My Library / Kyushu University Library